



がれきを想定した障害物乗り越えるレスキュー競技で奮闘する「Nexis-R」のロボット



「Nexis-R」の学生チームと、社会人チーム「Nexis-R+」のメンバー

技大が全国3位 長岡のチームが健闘

長岡技術科学大学と社会人でつくる「Nexis-R (ネクシスアール)」の学生チームが、災害現場での救助を想定したレスキュー競技で12チーム中3位に輝きました。地元の長岡からは他に、「Nexis-R」の社会人チームがレスキュー競技に、長岡高専のチームがサッカー競技に出場し、開催地の代表として健闘しました。



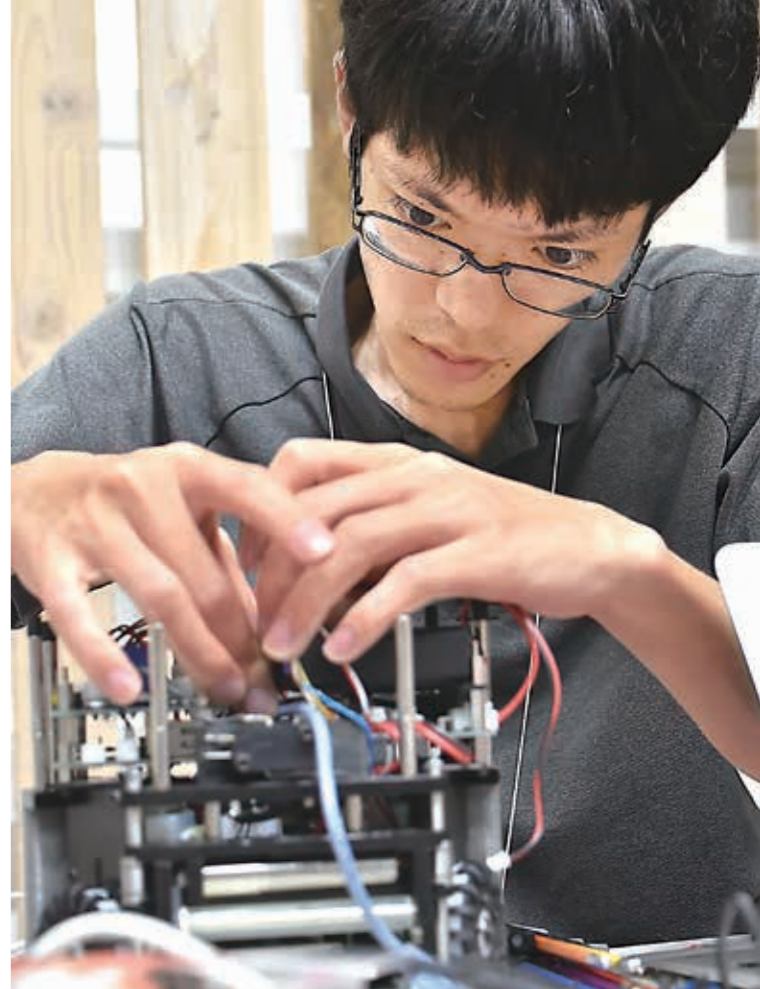
長岡高専のチーム「INPU+」



国内外から、400人の情熱
国内外から59チーム408人が参加。出場したロボットの中には、世界初の技術を搭載したものも。
各チームが真剣なまなざしと整備をしたり、動きに一喜一憂したり。独自のロボット技術でしのぎを削りました。



@ホーム競技に出場したロボット



ロボカップジャ 世界を

パンオープンに3万人 変える技術、集結



来場者(右写真)に与板地域の刃物技術を使った高性能のかき水機をPR



長岡が誇るものづくり注目
ものづくり企業など66社が大会に協賛。市内企業15社を含む23の団体が会場内に出展し、自慢の製品や最新の技術をPRしました。
子連れの家族や企業関係者も訪れ、工作機械や金属加工など、長岡の高い技術力が注目を集めていました。



市内企業のブースで、来場者のために飲み物を紙コップに注ぐロボット

行けなかった人は、テレビで楽しもう!

放送日時=9月15日(日)午後1時30分から、22日(日)午後2時30分から(各30分)
放送局=エヌ・シー・ティ(ケーブルテレビ)
園工業振興課 ☎39・2222

A I(人工知能)を搭載したロボットが、仕事や家事を担い暮らしを豊かにする。そんな未来を実現する最先端の技術を競う全国大会「ロボカップジャパンオープン」を8月16日から3日間、アオーレ長岡で開催しました。「サッカー」と「レスキュー」、家庭で役立つ機能を競う「@ホーム」の3競技を行い、3日間で約3万2千人が来場。若者が競技を通じて技術を磨き、子どもたちがその姿に憧れや目標を抱く、長岡の未来を担う技術者の育成につながる機会になりました。
市は今後も、大会を運営するNPO法人ロボカップ日本委員会などと連携して、市民がロボット技術に直接触れる機会を増やしていきます。



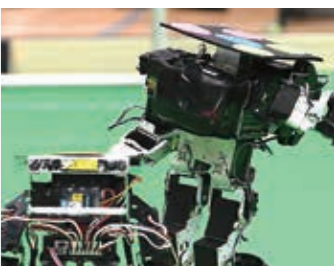
AIを活用した歩行者通行量の調査



子どもが夢中になった初心者向けの工作教室



広島修道大学教授・西田友定さんがCをテーマに講演



A-Iで動くロボットが3対3でプレーをしたサッカー競技